

きんたろう倶楽部通信

2号

2006年7月31日発行
きんたろう倶楽部事務局
〒930-0151 富山市古沢254番地
富山市ファミリーパーク内
TEL&FAX: 076-434-1316
URL: http://kintaroclub.net
E-mail: info@kintaroclub.net

2006年4月23日
きんたろう倶楽部結成
7月の会員数: 660名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。
それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

初夏のクマ

▼七月に入り、マスコミからクマの問い合わせが増えた。▼「魚津のインター付近にクマが出ました」「高岡の雨晴海岸まで四百mしかありません」「伏木にも出ました」▼そのたびに「何でなんでしょう」と聞かれる。
▼一昨年に起きたクマの大量出沒と人身事故以来、人里近くに現れるクマへの関心は高い。▼山に何が起きているのか。市民の漠然とした不安を背景にしているからだろう。▼初夏のクマ出沒が、一昨年の大量出沒につながるものではない。あれは冬眠前に山から出てきたクマたちが飢えて山から出てきたものだ。
▼初夏は仔クマにとって自立の季節。1年半余り母クマと暮らした仔クマが未知の世界に独りぼっちで歩み出す試練の時だ。▼この時期は「恋の季節」でもある。クマはなわばりを持たない動物。オスはメスを求めて広い範囲を動き回る。木の実やスズクエなど、まとまった餌も採りにくい時期でもある。山の餌を求めてクマは動く。▼人が去り、放置された里山は既にクマたちの生息域。その地域での時期の、こうしたクマの動きが人目についていると考えられる。インターや雨晴海岸に出たことに人はびつくりだが、クマにとってみれば放置された森や林を伝えはどうかとことない距離だ。▼ただ問題は、そんな場所でクマとニアミスをしたり、共存することはできないことだ。人とクマとの新たな境界帯づくり、交通整理が必要だ。

里山への想いの重さ

▼さて、四月二十三日にオーバードホールで結成されたきんたろう倶楽部。たくさんの方の思いが集まってきた。▼登録される人の輪は六百六十人を超えた。市民の皆さんの里山への関心の深さが窺い知れる。▼しかし、誰もが感じていることだろうが植樹や草刈りのイベントやボランティア活動だけでは里山は再生できない。きんたろう倶楽部では持続的に人が山に関わる仕組みづくりを考えているが、まだまだ模索の状態だ。

里山の再生とは、里山の新しい活用形態や方法を編み出すこと。それは「里山の新生」にほかならない。

▼明確なことは、昔の里山の再現は不可能という点だ。里山に人がいないからだ。山に関わりそこで生活する人の営みがないからだ。▼では里山の再生とはなにか。▼私はこれからの里山の新しい活用形態や方法を編み出すことだと思う。『里山の新生』にほかならない。

里山を活用し、人の持つ自然性の復権を

▼里山は多くの人が関わる生業の場だった。それに変わる活用の仕方がいま問われている。▼里山にはまず人がいなければならぬ。山を相手にした労働の場でなくとも。▼通つ。集つ。体験する。関わる。住む。山

を、森を理解する様々の形態が考えられるだろう。▼己を感じる場、行為する場としての里山の活用、それが総じて森づくりにつながっていく。▼感じていることがある。▼現代人が急速に喪失してきたもの、それは自然との関わり。▼現代人が急速に獲得したもの、それは都市化と都市生活。人為の世界の拡大。人の生き様は人為性の自己増殖の渦中にある。▼しかし、人は自然との関わりの中で自然を己れに取り込み、生きてきた。自然は相対するものではない。人の中に生きてくるもの。▼生き

物は自然を内に取り込んだ「自然性」を持つている。それが生き物の本質であり、生きていく力だ。人為の中で生きようと、生き物である限り、人も同じだ。人が人であるためには、人為性と自然性の双方を内包していなければならないのだ。文化や技、芸術も自然に依拠していることを忘れてはならない。▼ところが近年、人為性が人を飲み込みつつある。過剰な情報が溢れ、マネーゲームやバーチャルな世界がこの世を包み、短絡した事件が毎日のように起きる。▼自然から離れ、人の持つ自然性がなくなってきたらと私は感じている。自然性とは、生きていく力、生きる根っこ。取り戻さないと子どもたちの世代は今後、大変な生き方

を強いられる気がしてならない。▼里山を昔のように戻せないとすれば人の自然性を復権させ、人を元気にするために里山を活用すればいい。そこにお金をかけることは決して惜しいことではない。

森に通わば道は開けん

▼私たちが森に関わり最初に得るものは、自然を身に受ける快適さや満足といった心の充足だ。そして手入れして得る森からの恵み。間伐材や竹も、やりようによっては有用な資源として甦るはず。▼そして里山の空間は人の生きる価値を創造できる場だ。森の学校・コンサート・散策・フェスティバル・衣食住や文化、歴史に関する集いなどなど。▼人が集い、森に人に働きかける。やがて森には道が通じ、森が開かれる。こうして森をめぐる、人やものの地域的循環が回復すれば、新しい里山の文化が受け継がれていくだろう。▼森は簡単には変わってくれない。五十年、百年単位の長期的な視野がいる。しかしそれをやろう。未来の子どもたちのために。



〈文章と写真・山本茂行〉
きんたろう倶楽部副会長



森がないと、
ほくたち困ります。

私たちは
森づくりを応援します。

越中から、日本の中心から情報発信。

北日本新聞

富山商工会議所

富山市総曲輪2-1-3

TOYAMA INTERNATIONAL CONFERENCE CENTER
富山国際会議場
大手町フォーラム

デジタル印刷&マルチメディア
とうざわ印刷工業(株)
本社 〒930-0008 富山市神通本町1丁目8-13 TEL(076)432-3267(代)

ちゃんと
火を使える子供に
なってほしい

GAS COMPANY 日本海ガス
あなたとガスのホットライン
お問合わせセンター ☎0120-18-1107

森を元気に。
人を元気に。

きんたろう倶楽部の

活動拠点が

決定しました。

計画は五年単位。

森の成長単位は

百年刻み。

次世代へつなぐ

息の長い活動に

取りくもう。

竹の美林づくりー竹材の活用研究



ノーベル街道望む眺望地づくり



アカマツ林整備ー夢は松茸山



富山地域
呉羽丘陵 五百羅漢

大沢野地域
小羽地区 清水公園

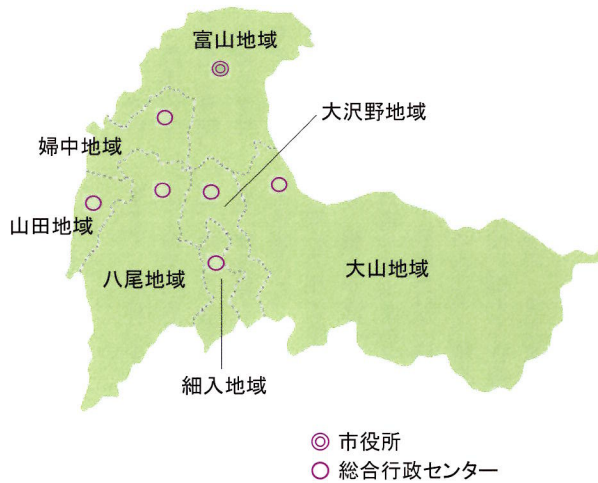
八尾地域
中核工業団地付近

長慶寺に祭られた羅漢石像。五百三十体余り。江戸時代の豪商・黒牧屋善次郎が先祖の供養のために、佐渡の石工にて彫らせたもの。呉羽丘陵を代表する観光地でもある。しかし、その背景の竹林は荒れ放題だ。長慶寺さんや地元の方々と共に、きんたろう倶楽部は竹林整備に立ち上がろう。(活動日については下記参照)

ノーベル賞の利根川進さんが幼少時代に遠足で訪れ、立山連峰の眺望に魅せられた公園。今は荒れ、眺望は知る由もなかったが、地元やボランティアの人々が清水公園を整備した。一緒にノーベル街道を望む眺望地をつくろう。(活動日については下記参照)

中核工業団地の回りの山々にはアカマツが生えている。整備すればきのこ山に戻るかも。八尾行政センターや企業の協力も得て、孫の代には松茸山にしよう。

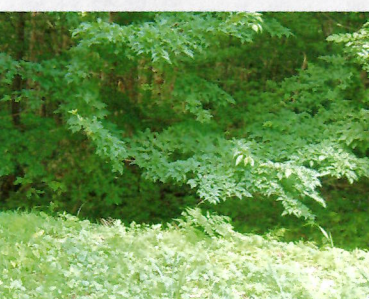
きんたろう倶楽部の活動地域



竹の美林づくりー竹材の活用研究



見本林づくり



在来植生回復林づくり



細入地域
割山 天湖森付近
天湖森の森林を里山林として活用整備していく。きんたろう倶楽部は、スギ間伐材を利用したきのこ養殖や商品開発も進めたい。

間伐材利用林づくり



婦中地域
各願寺・ふるさと自然公園

大山地域
富山国際大学付近

山田地域
KORORIの森

- きんたろう倶楽部計画概要
- 一、森づくり、人づくりは表裏一体。森の手入れと実践養成講座を平行して進める。
 - 二、竹材、間伐材など、里山の資源の利用開発、研究を進める。
 - 三、にぎわいのある里山の利用、活用研究を進める。
 - 四、五年後の山の姿を描き、手入れを進める。五年後、さらに五年間の計画を策定する。

各願寺は大宝元年(七〇一年)に開山したと伝えられる。比叡山に対し、北叡山と号し、勸願を賜ったと伝えられる真言宗の古刹である。しかし、訪れば竹がはびこり、隣接する自然公園も歴史や文化を覆い隠す藪山となりつつある。きんたろう倶楽部はほつとけない。

比較的新しく開拓されたこの地。その地に大学ができ、若者の声が届く。しかし、一歩キャンパスを出れば放置された山々が、二〇〇四年には、クマの出没が問題となった。このあたりはクマが里地に出没する通り道となっている。地域の人々や学校などと提携し、きんたろう倶楽部は境界作りを目指す。

『自然配植』という新しい技術を取り入れて、針広混交林を目指して昨年植樹したばかりの若い森を育成していく。在来植生の山への回復を目指す。きんたろう倶楽部は継続的な森の手入れに主体的に参画。

きんたろう倶楽部活動へのお問い合わせと参加お申込み

- ①竹の美林を作ろう 締切り 8月2日(水)まで
- ②眺望地を作ろう 締切り 9月20日(水)まで

住所、氏名、年齢、電話番号を記入してハガキかファクス、Eメールで事務局へお申込みください。家族で参加の場合は、参加者全員のお名前と年齢を記入をお願いします。午前10時～午後4時の時間帯は電話でも受け付けます。(日曜日を除きます)

きんたろう倶楽部事務局
TEL&FAX: 076-434-1316 E-mail: info@kintaroclub.net
〒930-0151 富山市古沢254番地 富山市ファミリーパーク内

- きんたろう倶楽部活動計画
ー夏から秋ー
- ①竹の美林を作ろう
呉羽丘陵を代表する観光スポット五百羅漢。長慶寺奉賛会、地元自治振興会、富山県自然保護協会有志の人たちと竹林整備を実施する。
 - 【期日】 八月五日(土) 雨天決行
 - 【集合】 午前九時半 長慶寺本堂前
 - 【作業】 午前中は、五百羅漢周辺の林竹の間伐・林内整理・遊歩道の草刈り。午後は、長慶寺住職による五百羅漢の歴史解説と座談会
 - 【解散】 午後二時・現地解散 (駐車場は長慶寺境内也)
 - ②眺望地を作ろう
大沢野の小羽地区の清水公園。小羽地区の人たちと共に公園を整備し、眺望地を作ろう。
 - 【期日】 九月二十四日(日) 雨天決行
 - 【集合】 午前九時半 小羽地区センター
 - 【作業】 午前中、清水公園周辺の林内整理(枝打ち・下草刈り)・竹の除伐など。午後は、小羽総代による清水公園の歴史解説と座談会
 - 【解散】 午後二時・現地解散 (駐車場は小羽地区センター)
 - ③いずれも長袖、長スポン、長靴、弁当持参でご参加ください。現地で味噌汁を用意します。
 - ④ボランティアサポート試行的な対象事業(各四ポイント)です。

竹林の手入れに参加して

富山市婦中町 宮田のぶ子

▼私が生まれたところは、谷あいの小さな集落です。▼小さい頃は、山や川が遊び場で、春は木苺、夏は桑の実やグミ、秋は山葡萄・栗等が近くの山で沢山取れ、自然の中で伸び伸びと育ったこともあって、童心に帰り富山の森を守る活動に参加いたしました。▼しかし、私の見た里山は、竹が密生し、雑木林の林内へほとんど広がる竹藪は、中が暗いだけでなく、折れたり枯れたりした竹が重なりあった、すぐく荒れた状態でした。弾んでいた気持ちは、どこかへいつてしまいました。このまま放置すると、山全体が竹林で覆われ、どんぐり等の雑木林はなくなってしまうそうです。▼本来の里山には、小動物等色々な多くの生き物が共生していました。今のうちにき



昨年に引き続き、呉羽丘陵の荒れた竹林の整理に汗を流す

▼7月2日(日)、生憎の雨降り。今日はきんたろう倶楽部のボランティアとして、富山市山田赤目谷で行われる「KOROりんの森」の整備に参加する。倶楽部のメンバーは何人参加するか分からなかったが、自分が入会申し込みをしたときから興味を持っていたので、ぜひ参加したいと思い妻と出かけた。▼集合場所には総勢約百名余りのボランティアが集まっていた。挨拶や注意事項を聞いた後、整備予定地に移動し、それぞれに指定された場所の下草刈りをした。▼最初の場所は割合に楽であったが、次の場所に移ると、ここが大変な処であった。昨年ボランティアの方々

森づくりの仕事に参加して

富山市下新町 江連俊克

が植樹された苗木の周りは、草が我々の腰位まで伸びており、掻き分けながら苗木に陽が当たるように草刈鎌で刈取りをしていた。▼また、苗木の所在が分かるようにと立てられた支柱の竹は、この冬の雪で6割以上が折れたり倒れたりしていたので、補修や交換の作業も行った。▼1時間半ほどの作業を行い、終了の合図があったときは、全身、雨と汗でずぶ濡れであった。▼解散後は、頂いた入浴券で近くの牛岳温泉センターに行き汗を流した。つらい作業ではあったが、やり終えたという満足感が湯船につかった体に広がっていった。▼これからの里山はどうあるべきかを考えたとき、まず何故、里山里山と言われるようになったのだらうと思ひ起すと、山に動物の餌となる植物が少なくなつたことが騒がれてからではないだろうか。そこで餌となる樹木を植えようということになったと思う。▼これからは植えるだけでなく、こまめな手入れをし、樹木の成長を促し、将来的に人間と動物が共生できる森とすることだと湯に浸り思つた次第である。



雨の中、在来植生の林を夢見てKOROりんの森の草を刈る

きんたろう倶楽部「森・人づくり」年間計画表

日程	講座名	目的
2006		
8/5(土)	里山再生事業(呉羽丘陵・長慶寺)	竹の美林づくり
8/未定	一般講座・サブリーダー養成講座	親子で学ぶ森の生活体系と森づくり
8/26(土)27(日)	リーダー養成講座(向上編・A)※	林業機械の整備点検と労災防止・伐採技術の向上
9/2(土)3(日)	リーダー養成講座(向上編・A)※	林業機械の整備点検と労災防止・伐採技術の向上
9/8(金)	リーダー養成講座(機械講習編・B)※	刈払機取扱者安全教育
9/10(日)	里山整備作業	生き物と共生できる森林環境を市民とつくる
9/24(日)	里山再生事業(小羽地区・清水公園)	ノーベル街道望む眺望地づくり
10/7(土)8(日)9(祝)	リーダー養成講座(環境教育編)	自然体験リーダー養成
10/未定	一般講座・サブリーダー養成講座	親子で学ぶ森の生活体系と森づくり
10/21(土)	サブリーダー養成講座(救急編・B)※	森づくりにおける万が一の救急処置知識・技術の習得
10/21(土)22(日)	リーダー養成講座(実践編・B)※	林業機械の取扱い・基本施業の実施体験
10/28(土)29(日)	リーダー養成講座(実践編・B)※	林業機械の取扱い・基本施業の実施体験
10/木の実が落ちる頃	森の里親事業	幼児への環境教育と苗木の育成を紅葉ガ丘幼稚園と行う
10/木の実が落ちる頃	森の里親事業	児童への環境教育と苗木の育成を光陽小学校と行う
10/未定	里山観察バスツアー	市内の里山の現状を市民に知ってもらおう
11/11(土)12(日)	リーダー養成講座(向上編・B)※	林業機械の整備点検と労災防止・伐採技術の向上
11/18(土)19(日)	リーダー養成講座(向上編・B)※	林業機械の整備点検と労災防止・伐採技術の向上
12/7(木)8(金)	リーダー養成講座(機械講習編・D)※	チェーンソー作業従事者特別教育講習
2007		
1/未定	地域交流会	各地域の現状と問題点、成功例と実施状況などの意見交換

※とやまの森づくりサポートセンター主催事業

事務局より



きんたろう倶楽部では、作業と平行して森を学べる養成講座も開催しています。ぜひ、ご参加ください。

力

【ちから】一人ひとりの力の集合

技

【わざ】森を整備するテクニック

倶楽部は求めています

知恵

【ちえ】経験を知恵に生かす

資金

【しきん】情報提供にも資金が必要